

門真市第4地域包括支援センター活動計画書、活動報告書（令和6年度版）

資料4-④

●令和6年度当初の値

圏域内の居宅介護支援事業所数	17
主任介護支援専門員の人数	25
介護支援専門員の数	51

●令和6年度のケアプラン総数

基準月	ケアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率(%)
令和6年3月	231	39	192	83.1%
令和7年3月	216	31	185	85.6%

	事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題	上半期実績に対する市の講評	当該年度活動内容のまとめと課題	当該年度活動実績に対する市の講評				
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数										
ケアマネ包括的メンタル業務	事例検討会	1		2		2	30	0	0	1	16	3	圏域内の居宅介護支援事業所との連携会議では、「援助を深める事例研究」の手法を研修し事例検討を行い、事例にかかわる情報や時事問題等についても意見交換やネットワークを構築した。介護予防や元気はつらつ教室等の事業について、研修や委託を通して引き続き理解が深まるよう取り組み、今後も引き続き研修や情報共有していく。	圏域内のケアマネジャーの意向を踏まえ、保険者が門真市になったことにより事業の変更などについての研修会を早期に開催した。各事業所の取り組みについても情報交換しネットワーク作りもできた。元気はつらつ教室については、センターの新職員の経験や理解を進めつつ、委託することで委託先のケアマネジャーにも経験と理解が広がるよう意識しており、引き続き後方支援していく。	今年度の早い時期に、地域のケアマネジャーに対して、事業の変更点などを伝える研修会を実施してもらえたことと、委託を受けて頂けるよう包括でのサポートに取り組んだ。下半期では圏域内の居宅包括連携会議を開催し体験したケアマネジャーの事例検討を行うとともに、行政にもケアマネジャーの現状を知って頂く機会を作る事ができた。このような機会の継続が今後も課題である。	リハ職派遣や元気はつらつ教室の活用が進まない原因として、実際に体験し理解する機会がないためではないかと考え、委託を受けて頂けるよう包括でのサポートに取り組んだ。下半期では圏域内の居宅包括連携会議を開催し体験したケアマネジャーの事例検討を行うとともに、行政にもケアマネジャーの現状を知って頂く機会を作る事ができた。このような機会の継続が今後も課題である。	1月に圏域内のケアマネを対象に連携会議を開催し、元気はつらつ教室の理解促進を図ってもらえたことが良かったです。事例検討会が未実施のため、可能であれば残りの期間で実施や来年度実施に向けた検討を行っていただきたい。認知症の方の事例など、様々な事例を取り扱う必要はあると考えるが、はつらつ教室の利用者を増やすための事例検討会の実施を期待します。				
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0										
	研修会（法定外研修含む）	2		3	2	30	1	28	1	28	2										
	うち、他圏域との合同開催数			4			0	0	0	0											
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2		14	2	30	3	56	7	109	4										
	元気はつらつ教室利用者数（直持ち）		20		15		10		1		1	3									
	元気はつらつ教室利用者数（委託）				24		10		1		6	3									
元気はつらつ教室終了後ケアマネジメントB算定件数（3か月後／6か月後）		12		8		12		2		2	3										
ケア地域会議	個別地域ケア会議 延べ件数（実件数）	延べ3		延べ 1		延べ 3		延べ3（実3）		延べ4（実4）		4	個別の地域ケア会議では今までも認知症のケースが課題となっている。圏域の地域ケア会議では、昨年度コミュニティコーピングについての学びから、具体的取り組みにつながる方法についての検討につなげていく。	個別には認知症にかかわる課題が多く、圏域としては昨年度の取り組みから見えた移動手段の課題について、市の事業を高齢者が活用できるかの実証等を検討している。	圏域の課題である移動支援に対して、既存の移動支援を活用しやすいように情報整理及び情報共有を圏域ケア会議にて計画されていることが評価でき、効果を期待しています。	圏域地域ケア会議では移動の地域課題について、バスやタクシーの社会実験の情報共有やシミュレーションを行い各校区の更なる課題を抽出し、行政に意見を届けた。参加者を見直し新たな課題抽出に取り組むことが課題。	個別、圏域ケア会議とともに概ね計画値通り実施されています。圏域ケア会議を実施することで、新たな課題の把握に繋がると考えますし、その課題の積み重ねが重要と考えます。引き続きの実施をお願いします。				
	圏域地域ケア会議	1		2		2	30	0	0	1	19							4			
把握介護事業防	基本チェックリスト実施件数		30		127		50		35		35	3	教室や通いの場等で基本チェックリストを行い、高齢者が自分の状態を把握し、介護予防の必要性を考える機会とし、介護予防の取り組み方を啓発する。	教室や自治会でチェックリストを活用して自分の状態をチェックし、介護予防取り組みの啓発を行った。そういった場で実施した方の中からは総合事業にはつながっていないため、引き続き周知に努める。	基本チェックリストの実施は、フレイル状態の発見に繋がることと併せて高齢者自身が自身の状態像を把握できる普及啓発に繋がるため、引き続き積極的に実施していただきたい。	自身の現状や介護予防のポイントを知って頂くため通いの場を中心に基本チェックリストを行った。次年度も同様に行い、高齢者自身が昨年の結果と比較しフレイル予防等のきっかけに出来るよう継続した啓発が課題。	高齢者自身が前回の結果と比較し、低下又は向上した機能の気づきに繋げていただいています。自身の気づきに併せて、リハ職を活用するなど、セルフマネジメントを促すような関わりについても期待します。				
	上記のうち総合事業につなげた件数							4		4											
普及介護予防事業	介護予防教室	12	120	10	247	12	250	5	132	10	262	3	毎月定例の四つ葉教室は、参加者が友人を誘われたり、総合相談で対応した方に紹介する等しており、30人程度参加している。今年度も継続して開催し、新しい参加者が増えるよう、チラシの配布等啓発に努める。コロナ禍で休んでいた地域の集まりに対して、教室等の提案をすることで地域に負担のない形で再開のきっかけになるよう支援しており、引き続き働きかけていく	四つ葉教室は安定的に開催できている。さらに参加者等が増えるよう、内容や広報など工夫していく。老人会などから出前講座等の依頼もされるようになってきており、コロナ禍前にかかわりのあった場にも声掛けしていく。	定期的に介護予防教室を実施され、参加者も多く、継続することで効果が出てくると思います。また、新たな参加者を増やす工夫を考えていただいているように、高齢者が関心のあるものや介護予防につながるものを企画し、参加者の増加など活性化が課題。	毎月定例の四つ葉教室では、開催時から定期的に来られているが状態悪化等で来られなくなるなど、長期間開催していることで参加者の変化も見られ始めている。次年度の計画を高齢者が関心のあるものや介護予防につながるものを企画し、参加者の増加など活性化が課題。	毎月定例で行うことで、参加しやすい体制になっていと思います。継続して参加されることも大切と考えますが、新たな参加者獲得のために、周知啓発の一緒に考えたいと思いますので、引き続き連携して取組を進めてください。				
	うち、他圏域との合同開催数				0	0			0	0	0							0			
	出前講座		7	127			0	0	4	194	3										
	うち、他圏域との合同開催数						0	0	0	0											
	介護予防教室・出前講座以外の普及啓発活動	1	10			3	15	2	588	6	778	4									
	うち、他圏域との合同開催数								0	0	0							0			

